

# 熊本・益城町東無田集落 復興まちづくりプロジェクト

発行者：  
中央大学理工学研究科都市人間環境学専攻  
環境デザイン研究室  
〒112-8551 東京都文京区春日 1-13-27  
2号館 2811・2817号室

2017. 08. 02 発行 No.4

## 熊本・益城町東無田集落にて、 第三回「まちづくりワークショップ」が開催されました。

2017年7月15日に、熊本県益城町東無田集落仮設住宅集会所で、被災者の皆さん、中央大学による第三回ワークショップが開催されました。今回は、これまでの検討を踏まえて、7月14日に取りまとめた「東無田庭園集落復興グランドデザイン」について改めて確認を行い、7月14日に西川博則・益城町町長に提出した意見書について、堀川正秀区長より報告が行われました。

意見書の要点は、歴史ある集落を持続していくために、「災害公営住宅を東無田集落中心部の被災地跡に整備していただきたい」という点にあります。これを実現していくために、ワークショップでは、さらなる検討を行い、以下の点について合意形成が行われました。

第一は、「災害公営住宅整備可能地区の検討」です。集落の南部地区にも、災害公営住宅を整備する可能性がある地区があるため、構想図に追加いたしました。第二は、「避難路の整備」です。災害公営住宅・集会所・公園は、避難路（幅員6m）と結びついていなければならないため、ルートの検討を行いました。第三は、「狭い道路の改善」で4メートル未満の道路は、最低4メートルを確保し、将来的には各戸が1.5mのセットバックを行い、幅員6メートルの道路を確保することができるよう合意形成に努めていくことを確認しました。第四は、「集落の文化的景観を保全・育成していくこと」で、各戸に残る庭園の保全、東無田八幡宮の参道の整備、眺めの良い場所にある吉永家跡の活用を検討していくこと。第五は、「住宅の境界は、ブロック塀とはせず生垣もしくはフェンスにするよう周知」を行っていくことで合意されました。



災害公営住宅配置構想図（2017年8月）



狭い道路の改善について、  
話し合いが行われました。